

平成16年4月20日 発行

IUHW

The gazette of International University of Health and Welfare

発行：学校法人国際医療福祉大学
編集：広報委員会 ☎0287-24-3000
ホームページアドレス：<http://www.iuhw.ac.jp>



vol. **54**
April
2004

特集

平成十五年度卒業式・大学院学位記授与式
あす

校歌「未来への扉」に送られて 卒業生・修了生八六五名の門出

六人の博士誕生

博士後期課程修了「第一期生」が、
バチエラーガウンと角帽で演壇に

第六回卒業式 学長式辞

◆「人」第4回

「偶然と意思」

国際医療福祉大学大学院長 開原成允

◆連載エッセイ「見・聞・録」第4回

「“産婆さん”はNO?」

大学院教授・国際部部长 長谷川豊

◆close UP

構内バリアフリー化の功労者も卒業生

Topics

国境なき医師団がやって来た!／医療福祉学科実習報告会開催／第3回医療経営セミナー開催／平成16年度一般入試前期試験行われる／ニッセイ同和岡崎会長と奨学生の懇親会を開催／平成15年度修士学位論文発表会／大学院全体会議開催／初山泰弘前大学院長がバラルンピックオーダーを受賞

表紙／博士後期課程修了第一期生の勝平純司さんと、卒業生総代の丸山貴美子さん

校歌「未来への扉」に送られて。

卒業生・修了生八六五名の門出。

三月十二日、国際医療福祉大学本校にて、平成十五年卒業式、並びに大学院学位記授与式が行われた。

本学では、昨年より一般公募で校歌を募集していたが、島田市の会社員内田範夫氏作曲、静岡市の主婦森田美子氏作詞の「未来への扉」が大賞を受賞、本学校歌に決まった。この日、七七一名の卒業生と、大学院修了生九四名を前に、コラス部が校歌を披露、卒業生始め出席者も手元の歌詞と譜面を見ながらの、初の「校歌斉唱」となった。

続いて、卒業生総代として、理学療法学科の丸山貴美子さん（表紙の人）に、谷修一学長から卒業証書が授与された。また、第一期生となる大学院博士後期課程修了の六名が、揃いの角帽とパチエラーガウンで壇上に上り、修士課程修了の山崎一幸さんとともに、開原大学院長より、修了証と記念品が授与された。（四ページに記事）

各学科の学業成績優秀者七名に学長賞が授与された後、谷修一学長、高木邦格理事長の式辞に続き、来賓として、大田原市長千保一夫様、栃木県出納長堀口昭雄様、東京医科大学学長伊東洋様から式辞をいただき、卒業生・修了生の代表がそれぞれ謝辞を述べた。（六ページに学長式辞を掲載）

平成十五年学部卒業生

保健学部

看護学科

二四名

理学療法学科

一〇一名

作業療法学科

九三名

言語聴覚学科

一〇〇名

放射線・情報科学科

一四名

医療福祉学部

医療経営管理学科

一六名

医療福祉学科

二三名

以上、七七一名

（大学院修了生は四ページ）

●学長賞受賞者（学業成績優秀者）

看護学科

渡邊美佐緒

理学療法学科

丸山貴美子

作業療法学科

平野大輔

言語聴覚学科

石原徳子

放射線・情報科学科

大澤典久

医療経営管理学科

齋藤華奈恵

医療福祉学科

金子京子

（卒業生総代・表紙の人）

校歌・大賞受賞インタビュー

学生の誰もが口ずさめ、キャンパスのどこでも歌える、優しい校歌を作ってみました。



作曲者：内田範夫氏

卒業式に続く懇親会での授賞式を終えたばかりの、作曲の内田範夫氏と作詞の森田美子氏のお二人に話を聞いた。

■本日の卒業式で初めて、お二人にお作りいただきました校歌を披露させていだいたわけですが、実際にお聞きになつていかがでしたか？

内田 自分の曲が自分の手から離れて、皆さんに歌っていただくことが、曲を作るうえで何よりの感動なんです。今日も大変感動しました。

森 そうですね、やはり、式が始まって、卒業生の皆さんが手元の楽譜を開かれたときに、感動して、胸に込み上げるものがありました。

■今回本学では校歌を一般公募し、お陰様で三〇点もの応募をいただき、選考の結果この「未来への扉」に決定させてい

ただいたわけですが、お二人は、どのようにして公募をお知りになりましたか。

内田 森さんとは、二人で曲作りをしていて、同じ（公募）雑誌を購入しているのですが、その中に、こちらの校歌募集が出ていました。作詞・作曲ということだったので、「二人でやってみようよ」ということになったわけです。

■いつもは、お二人はどのようにして曲作りをなさっているのでしょうか。

内田 二人のパソコンには、同じ音楽ソフトが入ってまして、私が曲を作つて送ると、森さんがそれに詞をつけてメールで返してくれるんです。後は電話でのやりとりですね。私が受話器を顎に挟んで、ギターの弾き語りで歌って、「どうか」「なんてやってるんですよ。（笑）」

森 ところが今回は、「校歌の場合は絶対に詞が先だろ」と内田さんが主張するので（笑）、まず一番の歌詞を書いてお渡しして曲を付けていただき、それから二番、三番を考えました。

■医療と福祉の大学の校歌ということ、意識したことはありますか？ 歌詞の面からはどうでしょう。

森 普通の大学の校歌でしたら、「失敗は成功の元」というコンセプトもあるでしょうけど、医療の場合には絶対に失敗はあってはいけないと思いましたので、最初の「高い空」で始まる詞に、「高い志」とか、「高い技術」というような意味を込めて書きました。二番に「微かな光も追い求め」という詞が出てきますが、ここは「微かな光を」ではなく、小さな希望も決して見失わないようにという思いを込めて「微かな光も」としました。

ただ、三番の「突然の雨に打たれても」の詞は、提出する直前まで迷ったのですが、先程の授賞式で、まさにその箇所を誉めていただき、本当に安心しました。

■作曲の面からはいかがですか。

内田 校歌というと、一般的に甲子園で流れる高校の校歌のようなメロディーがイメージとして浮かんで来ますが、今回は、ギター一本で、キャンパスのどこでも歌えるような、自然に口ずさめるような曲にしようと思って作曲しました。

■質実剛健、元気いっぱい校歌ではなく、どちらかというとカレッジフォークのような曲にしよう。

内田 ええ、そうですね。優しいメロディーにしようと思いました。

■ところで、大田原に建つ本学のイメージを静岡にお住まいのお二人はどのようにしてとらえられたのですか。

森 インターネットで、こちらの大学や大田原市のホームページを見せていただいたり、地図を調べたりしてイメージしました。

内田 私は、森さんの歌詞からイメージを膨らませたのですが、今回、那須塩原の駅で、広い大地と雪を頂いている山々を見て、まさにイメージ通りだったので、二人で「ピッタリだったね」って喜んでいました（笑）。

■本学でも大切に歌い続けさせていただけます。本日はありがとうございました。（取材・文…編集部、写真…加藤文哉）

新しい校歌は、大学ホームページで試聴できます。



国際医療福祉大学校歌

あす

「未来への扉」

作詞 森田美子
作曲 内田範夫

一 高い空に手を伸ばして つかんだその夢を
広い大地の上で大切に育てる
未来への扉を開くのは
限りない努力 支え合い
確かな思いを貫いて 共に進むこの道
輝け国際医療福祉大学

二 はるか遠い海を渡る 見知らぬその国で
さしのべたこの手を にぎりかえすめくもり
未来への扉を開くのは
はてしない希望 めぐり合い
微かな光も追求め 共に進むこの道
輝け国際医療福祉大学

三 流れる雲 優しい風 いつの日か離れても
「戻る場所はここ」 那須の山なみ微笑む
未来への扉を開くのは
惜しみなくそそぐ 人の愛
突然の雨に打たれても 共に進むこの道
輝け国際医療福祉大学



作詞者：森田美子氏



六人の博士誕生

博士後期課程修了 “第一期生”が バチエラ・ガウンと 角帽で演壇に

卒業式のこの日、六名の博士が誕生した。本学にとって大学院博士後期課程修了の第一期生となる。

修了生総代の医療福祉経営専攻修士課程修了の山崎一幸さんに続き、勝平純司さん（表紙の人）・解良武士さん・鈴木康文さん・西田裕介さん・朴恵淑さん・森一生さんの六人の博士が揃いの角帽とバチエラ・ガウンで壇上に上り、やはり角帽とバチエラ・ガウン姿の開原成允大学院長より、修了証と記念品が授与された。続いて、開原大学院長より次の挨拶があった。

「今年は、大学院にとって大変記念すべき年であります。それは、初めて六名の博士の方々の修了を迎えるということ、で、本学の大学院も完成を見たわけであります。」

博士課程を修了された六名の方々は、これから大学において指導的な立場に立たれ、特に朴先生は、韓国において指導者となられます。これは、国際医療福祉

大学の、国際的な視野をもって指導者を育てるという理想が、まさに実現をしたということであり、大変嬉しく思っております。

しかし、これも初代の大学院長でありました初山（泰弘）先生が、この基礎を築いてくださったからであり、この席を借りまして、初山先生に心から御礼を申し上げます。

どうぞ皆様方、これから各分野で活躍になって、そして、日本の医療福祉の分野を、ぜひ盛り立てていただきたいと思っております。本当に、おめでとございまして。」

平成十五年度大学院修了生

大学院医療福祉学研究科

・保健医療学専攻博士前期課程 六七名

・医療福祉経営専攻修士課程 二二名

・保健医療学専攻博士後期課程 六名

以上、九四名

（博士後期課程修了第一期生）

博士学位論文発表会 講評

学位記授与式を前に、二月十四日（土）に、大学本校のF棟一〇一教室（大講義室）にて、大学院博士学位論文発表会が行われた。この発表会は、学位を審査するための最終的なプロセスである。

発表会は、鎌倉矩子専攻主任の開会の辞、開原成允大学院長の挨拶に続き、六人の論文発表が行われた。発表後、開原大学院長の講評を受け、高橋泰専攻主任の閉会の挨拶で終了した。以下に各教員からの講評をいただいた。

理学療法、言語聴覚、放射線分野 の指導者が誕生

大学院院長 開原成允

六人の博士課程修了予定者の研究論文の発表を聞いて、日本の将来の指導者を育てるといふ本学大学院の役割が立派に果たされたことを実感しました。発表された研究はそれぞれ個性をもった良い研究でした。学生の皆さんの努力に敬意を表すると共に、ここまで指導された教員の方々のご苦労にも心から感謝したいと思えます。今回の修了予定者の方々は、すべて四月からはいろいろな大学で教職について後進の指導にあたることになると思います。特に朴恵淑さんは韓国の失語症の第一人者となって延世大学で活躍されることでしょう。笹沼先生のご指導のお陰で本学は国際的な指導者も育てたことになりました。

今回、残念ながら論文完成に至らなかった学生の方々もありますが、その方々のためには、今後努力すればいいわけ、論文博士を申請して学位を取得する道も開かれています。ぜひ研究を完成させて今回の修了予定者に続くことを願っています。

今年の修了生を送り出せば本学大学院も名実共に完成したことになり、初山先生の創設時のご苦労が実ったことになりました。これからはいよいよ本学の責任で大学院を発展させなければならない時代になります。全学の皆様のご支援をお願いいたします。

初の博士論文発表会を終えて

保健医療学専攻主任 鎌倉矩子

期待をこめて待ち受けた発表会への登壇者は六名であった。いずれも力作揃い。よい伝統をつくる、という見地からすれば、好調の第一歩が刻まれたと思う。中には分野違いの人間の目にも、これはどうやらすごい研究らしいとわかる、一級品も含まれていた。

聴衆にも真剣さがあつた。たとえばある発表に対し、「こういう発表では論理が通っているということが一番大事だと思う。その点、疑問が残るところがあるので説明してほしい」という発言があつたのは、とても象徴的なことだったと思う。

今年度、博士後期課程三年次の在籍者は十八名であった。そのうち九名が論文を提出したが、後に三名が撤退した。結局発表段階へこぎつけたのは、在籍者の三分の一である。その大部分が「理系」であった。「文系」は苦戦しているのだから、次年度はぜひ、と期待したい。

博士になるとは、研究者であることへの通行手形を得るに等しい。六名の方々は、より自由に、より伸びやかに、今後の研究活動を展開して行つてほしいと願っている。

バレンタインデーの研究発表会

医療福祉経営専攻主任 高橋 泰

バリアフリー住宅が最近注目され、階段は一段一段の高低差が少なく、蹴上げ（階段の水平な部分）の幅が広い方が、身体負担が少ないといわれていますが、果たして本当でしょうか。このような問題を研究し、階段と身体負担の関係が明らかになれば、より良いバリアフリー住宅の設計が可能になります。CTのアーチファクト（実際には存在しないのにCT画像に現れるノイズ）を減らすことができれば、より正確な診断ができるようになります。この問題を解決する技術の開発は、医学の発展に大いに寄与します。日本でも普及している失語症テストを韓国で利用できる形に改良すれば、韓国の失語症患者さんにとって大いなる福音になります。これらは今年国際医療福祉大学で博士を授与された方々の研究内容です。

二〇〇三年十二月から二〇〇四年一月にかけて、国際医療福祉大学にとって初めての博士論文の審査会が行われました。審査は厳格に行われ、力及ばず合格に至らない論文もありました。一月十四日（バレンタインデー）に行われた研究発表会は、厳しい審査を通過した研究成果が集まり、一粒一粒が洗練された。〇〇のチョココレートのような、すばらしい発表会になりました。今後、世の役に立ち、内容も高度である博士論文が、国際医療福祉大学の大学院から発信されることを期待したいと思います。

勝平純司（理学療法学分野）



論文
「昇降動作における腰部負担の分析
——高齢者の在宅生活を対象として——」

01

解良武士（理学療法学分野）



論文
「様々な姿勢での呼吸性筋活動の運動学的分析に関する研究」

02

鈴木康文（理学療法学分野）



論文
「下肢レジスタンス運動の安全性の検討
——レジスタンス運動の強度設定に着目して——」

03

西田裕介（理学療法学分野）



論文
「高齢者の健康増進に有用な
低強度負荷トレーニングプログラムの作成」

04

朴恵淑（言語聴覚分野）



論文
「韓国版失語症検査の開発・標準化ならびに
韓国失語症群の特性に関する研究」

05

森一生（放射線・情報科学分野）



論文
「超低線量X線CT画像のアーチファクト除去」

06



学長式辞

二〇〇四（平成十六）年三月十二日

▼本日卒業した学生は七七一名、学位を授与された大学院生は九四名であります。皆さんに教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。特に今年は、先ほどご紹介がありましたように、本学の大学院として初めて六名の博士が誕生した記念すべき年であります。私はまずもって六名の方、ならびに修士の学位授与を受けられました大学院生の皆さんにお祝いを申し上げます。

私は、皆さんのような社会経験を積んだ方があらためて大学で学び研究をするということが、これからのわが国の大学教育の中の大きな流れになると考えております。

特に今年は、博士・修士を受けられた方の中で四名の留学生があられます。先ほど

開原大学院院長からご紹介がありましたように、韓国、中国、フィリピン、そしてケニアの四人の方でございます。おそらく皆さんは、祖国を離れて大変なご苦労をされたと思いますが、これから大学で学んだことを生かしてますますご活躍されることを心から念じて止みません。

▼さて、今年の卒業生の多くは、就職して医療や福祉の仕事に就かれる方です。皆さんのほぼ全員が就職できる、あるいはその見込みがあるということは、昨今の状況の中では非常に恵まれていることだと思えます。このことは、もちろん皆さんご自身の努力によるところが大きいわけですが、ご家族や先生方、友人や地域の方々目に見



国際医療福祉大学学長 谷 修一

ました。そして全国の医療福祉の現場で仕事をしております。また、来年には本学園学十年を迎えます。現在大学では来年四月の開設を目標にして、新たに六年制教育となる薬学部開設の準備を行っております。

この薬学部の設置によって、本学の研究活動はさらに活発になり、本学が北関東地域での医療福祉分野の研究活動の拠点になることが期待されております。また、十周年の記念行事の一環として、図書館の増設、体育館の拡張、新しい学生食堂の併設などを計画しております。皆さまの子弟が、わが国際医療福祉大学を卒業したことを誇りに思っていただけるよう、教職員一同この大学のさらなる発展のために努力することをお約束して、今後とも皆さまの幅広いご支援・ご理解をお願い申し上げます。保護者ならびにご家族の皆さまへのご挨拶とさせていただきます。

＊ ＊ ＊

▼最後に、あらためて卒業される皆さまに申し上げます。私が最近読んだ本で村上龍という作家の『13歳のハローワーク』というのがあります。ご承知の方もいるかと思いますが、村上龍は昭和五一年、二四歳のときに『限りなく透明に近いブルー』という作品で芥川賞を受賞した人です。この『限りなく透明に近いブルー』については、発表当時その文学としての評価はともかく、そこに描かれている若者たちの暴力と麻薬、あるいはセックスなどを中心にした無軌道な青春が話題になり、一五〇万部を超すベストセラーになりました。ちょうど今年、二人の二十歳の女性作家が芥川

賞を受賞して大きな話題になっておりますが、その当時はそれと似たような社会現象であったというふうに記憶しております。

この『13歳のハローワーク』という本もすでに五〇万部を超す売れ行きだということですが、彼はこの本の中で十三歳という大人の世界の入口にいる世代を対象にして、さまざまな仕事・職業を紹介しています。そして、仕事・職業こそが現実という巨大な世界の入口であり、私たちは自分の仕事・職業を通じて世界を見たり、感じたり、考えたり、対処したりすることができるようになるというふうに述べています。そして、この世の中には二種類の人間しかなくて、それは偉い人と普通の人間ではないし、金持ちと貧乏人でもないし、悪い人と良い人でもなく、利口な人と馬鹿な人でもない。二種類の人間とは自分の好きな仕事、自分に向いている仕事で生活の糧を得ている人とそうでない人のことだというふうに書いています。

幸い皆さんは自分がやりたい仕事を見つけてました。社会に出る前に自分のやりたい仕事を見つけた人のほうが人生を有利に生きるといのは真実だと思いますが、皆さんが取得する資格は、皆さんが志す医療福祉の仕事をする上での目的ではなくて手段であります。そして現在は仕事のあり方や就職のあり方が形も変化し、社会全体も変化をしている時代であります。

現在、日本の社会ではイラクへの自衛隊の派遣が行われ、また日本の人口全体が減少に向かうなど、おそらく、後で振り返ってみればわが国の歴史の転換期であった、そいつ時代だろうと思えます。社会全体が過渡期であります。しかし、こんな時代

えない陰の支えのおかげでもあると思えます。それに感謝する気持ちを忘れないでいただきたいというのが、皆さんの人生の中でも極めて大きな節目である今日、私が申し上げたい第一のことです。

▼国際医療福祉大学では、皆さんに医療や福祉の専門職としての教育を行ってまいりました。しかし、技術革新の激しい現代社会においては、医療福祉に関する技術・学問といえども五年後には半分が古いものになるといわれております。その意味でも生涯にわたって勉強を続け、専門職としての力量を高めていこうという意欲を持続続けていただきたいと思えます。と同時にその仕事は、個人の利益を追求するのではなく社会に対する奉仕が基本であります。したがって、自分自身に対する厳しい自己規律と強い倫理観が求められております。「自らの努力なくして人生の果実を期待してはならないことを知っている人」これが私が期待する理想の専門職の姿です。皆さんはここで学んだ知識と技術と、そして大学建学の理念である「共に生きる社会」を築くという精神を持って、医療福祉の分野で知的にも精神的にもたくましく生き抜いていただきたいと思えます。

私は、皆さんが大学を卒業した後もこういったことを目標にして、日本国内はもとより広く海外も含めて人々の健康と福祉の向上に尽くしていただきたいというのが今日申し上げたい二つめのことであります。

▼医療や福祉の現場は常に病に苦しむ人、不自由な体で耐える人、そして死に直面する人と接する場です。それはまた、病気を通して健康の喜びを、死を考えることによつて命の尊さを思つて感ずる場でもあります。

だからこそ自分をしっかりと見つめ、社会を見通し、自分の目指すこと、自分の好きなことをすべきたと思えます。

▼皆さんは学位だけを手に入れて本学を後にするのではなく、人生のいかなる局面にも立ち向かうのに十分な知識と、精神と、そして多くの友人を得て本学を後にします。これから皆さんに必要なのは実社会での経験です。皆さんは、これから仕事を通じて、悩み、自分なりに考えて、その時々状況に応じて解決して行かなければなりません。ときには難しい人間関係もありましようし、我慢や忍耐を伴う辛いこともあると思えます。その上で私が今日一番申し上げたいことは、皆さんが恐れることなく、また臆することなく、あらゆる物事に挑戦し、一つの道を歩んだが、いかなる足跡も残さなかつた、というよつなことを言われることのないように前に進んでほしいということあります。

今、皆さんが持っている希望と不安、夢と現実、そして多くの若者が持つ自分自身への、また、自分の将来の人生への不確かさといった諸々のものを持ち続けたまま、今の気持ちそのまま勇気を持って歩き出していただきたいと思えます。

今、この瞬間を、情熱を持って生きることこそ若者だけに与えられた特権であります。皆さんが、真に清冽にして、実りある、そして悔いることのない人生を歩まれることを心から切望して、私の挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとございました。

（写真…加藤文哉）

患者さんたちは、皆さんの姿や行動の中に明るさと生きる喜びを求めています。皆さん自身が生きる幸せを感じるとき、あるいは命の尊さを思うとき、それが自然に皆さんの顔に輝く瞳や明るい表情として表れ、そのことが多くの人々にとって暖かい光となり、生きる自信につながっていくのだと思えます。その意味で、皆さんの目をいつも相手と同じ高さにするという気持ちを忘れないでいただきたいし、皆さん自身が心も体も健康であることを心がけて頑張っていたいただきたいというのが、今日卒業生の皆さんに私が申し上げたい三番目のことです。

＊ ＊ ＊

▼ここで、今日ご臨席をいただいた保護者ならびにご家族の皆さんにお祝いを兼ねて一言ご挨拶を申し上げます。

本日は本当におめでとございました。大学としても教職員一同できるだけのことはしたつもりでございます。しかしこの間、学生本人の努力はもとよりのこととしても、皆さまの物心両面にわたるご支援がなければ今日の日はなかったということを思うとき、大学としても皆さまに対してあらためて感謝を申し上げる次第でございます。

今日を境にして多くの若者が社会人として、また医療福祉の専門職として世の中に出てまいります。彼らの道は決して平坦ではないと思えますけれども、困難を乗り越えて新しい時代を切り開いてくれることを皆さまともども期待をしたいと考えております。

幸い本学の卒業生もすでに四千人を超え

Column

卒業式に花を添える

晴れやかな着姿の卒業生がキャンパス内を行き交う卒業式の当日。校舎と校舎を結び、通い慣れた歩道に沿って作られた花壇に、黄色のパンジーの花が美しく咲いていたの目を留めた卒業生も多かったのではないだろうか。この花は、園芸部の在校生が、卒業式の日、卒業生や保護者の方々に見て貰おうと植えたものである。園芸部は、一・二年生を中心に約三〇人で活動している。活動は主に野菜の栽培や花壇作りで、一年を通じて土と触れ合うのだそう。

リーダーの北條千尋さんから、取材に対して「部はとてもアットホームな雰囲気、畑の中では方言が飛び交います。未経験者が多く、都会出身の人も少なくありません。園芸はこの広い大田原の地でこそできる部活動だと思います。また、花壇や畑を作るにあたっては、新鮮な花を提供して下さる大田原園芸さんや先輩からのアドバイス無しではできません。卒業式の日には、花壇を花で飾ろうと、春の代表花であるパンジーを黄色をベースにグラデーションにして植えました」とのコメントが届いた。（編集部）



卒業式のために花壇に花を植える園芸部の面々

構内バリアフリー化の 功労者も卒業生

五三号の「学生生活に関するアンケート」の記事中でも「学生ボランティアグループ『かざはな』の活動報告を受け、ストレッチャー収容可能な大型エレベーターの新設、バス停から講義棟間の通路のスロープ改修、階段・出入口の改修、手すりの増設等バリアフリー化を目指した構内環境整備を年度内に完成予定で工事を行っている」ことを報告したが、この度、これらの工事が完成した。

この「学生ボランティアグループの活動報告」で、中心的役割を担った、医療福祉学科四年の小川修平さんも卒業生の一人だ。卒業を間近に控えた、構内バリアフリー化の功労者に、調査レポート提出までの経過を振り返ってもらった。

「最初は、レポートの提出というところまで考えていたわけではありませんでした。『かざはな』というボランティアグループができてからまだ日が経っていなかったの、仲間作りの意味で何か一つのことを皆でできれば、と思ったのです。

ボランティアとして、療護園の入所者の方の車いすを押して外出介助をした際、『散歩しているときに不便があるんです』という声を聞き、『大学構内のどこがバリアフリーができていないかを調査しよう』と提案したところ、自分達で体験して具体的に知ろう、ということになったのです。

卒業式当日の小川修平さん。在学中にボランティア活動を行った国際医療福祉リハビリテーションセンター前で、日本社会福祉養成校協会から贈られた表彰状を手に。



バリアフリーの調査レポートを提出した小川修平さんに聞いた。

前で調査の報告をする機会があったのですが、それを聞かれた当時のリハセンターの療育園の施設長でいらした鈴木義之先生が、『提出する価値のあるものなので是非』と背中を押してくださいました。その後、学長室に呼んでいただき、谷修一学長から、どういう気持ちでこれを調査したのか、大学のバリアフリーについてどういう印象を持っているのかなどを一对一で聞いていただきました。

このように学生が集まって調査したことを真剣に取り上げていただき、また具体化していただいたことを大変感謝しています。今後は、障害を持った方が入学してきて、この大学がその方の学舎となったとき、十分なバリアフリー対応ができていれば素晴らしいと思います」（取材：編集部）

Date: December

12/18

国境なき医師団がやって来た！

国際医療福祉大学OPST（Overseas Primary healthcare Study Team）部は平成十五年度十二月十八日、本学に国境なき医師団（MSF）所属の川井理恵子看護師を講師に招き、講演会を開催した。同部活動の部員が、本学学生を含め地域住民と共に、国際保健協力を考え、そのあり方を見つめなおそうと実施。講演会当日は一般、他大学学生を含め四五七名の聴講者が参加した。

川井看護師は「国境なき医師団」エチオピアからの報告」と題し、自身が取り組んだMSFプロジェクトの活動内容や自身が感じた国際協力のジレンマなどを講演。川井看護師は二〇〇三年八月、エチオピアで三カ月間MSF緊急栄養プロジェクトに携わり、栄養失調児に対する栄養補給と健康管理を行ってきた。その



MSFの講演会に聴き入る聴講者

のことを振り返り、「地球上で二〇%を占める先進国では飽食の時代を迎えているが、八〇%の国々は飢餓に苦しんでいる。また、途上国の幼い子どもたちは、今もなお、治るべき病で命を落としている」と話し、国際保健協力への理解とその必要性を示唆した。しかし、その一方で「国際協力は被援助国にとって時として毒になり得る」と話し、国際協力の難しさ、ここからの課題について語った。

講演会に参加した聴講者からは多くの質問や活発な意見交換もあり、講演会は盛会のうちに幕を下ろした。

（OPST部総務・看護学科二年 遠藤雅幸）

Date: January

1/30

「医療福祉学科実習報告会」開催

医療福祉学科では、三年生全員が国家資格である社会福祉士受験資格の取得のため、夏休みを中心に「社会福祉援助技術現場実習」を約一カ月間行っている。学生は、この約一カ月の間、体験を通して社会福祉援助技術を学ぶことにより、社会福祉の専門職としての第一歩を踏み出すことになる。

この「社会福祉援助技術現場実習」の学習成果を三年生全員が発表する場として、去る一月三十日、本学において「医療福祉学科実習報告会」が、実習領域（地域福祉領域、行政相談領域、障害児・者福祉領域、高齢者福祉領域、児童福祉領域）ごとに分かれて開催された。報告会の前半では、実習指導に当たる施設・機関の実習指導者四四名と来年度に実習を控えている医療福祉学科二年生全員の

参加により、実習中に学んだことや課題などについて率直な意見交換がされ、参加者全員で実習成果を共有することができた。また、この日の報告会のために三年生が用意したレジュメやスライド、報告方法など、独創的で工夫をこらしたものが目立ち、実習指導者や二年生からも「よかった」と驚きの声が多く聞こえた。報告会の後半では、実習指導者と教員の懇親会および三年生と二年生の情報交換会が、それぞれ実習領域ごとに行われた。実習指導者と教員の懇親会では、来年度の実習の受入体制、内容などについて話し合われ、三年生と二年生の情報交換会では、三年生から二年生へ実習先の情報や実習に向けてのアドバイスなどが行われ、それぞれ親睦を深めあったところで、実習報告会の全日程を無事終えることができた。

緊張の中で実習報告会に向けて準備や学習を重ねてきた三年生たちは、実習報告会終了後、安堵の表情を浮かべ、それぞれ達成感を感じていたようだった。この実習報告会を終えた三年生は、一回りも二回りも社会福祉の専門職に向けて大きく成長したようである。

（医療福祉学科 若倉 健）



実習の成果を報告するHSの3年生

Date: January

1/31

第三回医療経営セミナー開催

一月三十一日（土）に、ホテル・オークラ（東京都・港区）で、大学主催の医療経営セミナーが開催された。今回のテーマは「医療制度改革の行方と医療機関経営」で、多くの医療関係者や官公庁の方々、さらには本大学にゆかりの深い方々の多くの参加を頂き、会場は四〇〇名を超える熱心な参加者で、熱気につまれた。

主催者代表として挨拶された谷学長は「医療保険制度の制度そのものが、硬直化してきている。医療機関には経営上の工夫や経営の裁量の余地を残し、患者さんには、選択の余地を持つてもらうようになることが重要だ」と述べられた。セミナーは、恩賜財団済生会理事長で、我が大学の評議会議長でもある幸田正孝氏（元厚生省事務次官）の基調講演にはじまり、厚生労働省医政局の榮畑総務課長、川崎医科大学の川原教授のご講演と、医療制度改革や医療機関の資金調達の話まで、非常に幅広く興味深い講演が行われた。

特に幸田理事長は「医療供給体制と保険診療体制を併せたヘルスケアシステムの中期の展望の観点から言えば、国民皆保険の呪縛からの脱皮や、形骸化している地域医療計画の見直し、さらには医療保険と介護保険のオーバラップしている関係の再考が重要である」との見解を示され、多くの参加者から注目を浴びた。

基調講演のあと開催されたシンポジウムでは、当大学の開原大学院長がモデレータを務め、厚生労働省医政局の渡延指導課長、全国社



シンポジウムでは熱い議論が展開された（写真提供：医療福祉チャンネル774）

会保険協会連合会の伊藤理事長（元厚生労働省医政局長）、竹田総合病院の竹田理事長、そして当大学の高木理事長が参加して、地域医療計画をはじめとする規制改革の議論や医療機関の資金調達について、非常に熱い議論が展開された。特に高木理事長は、地域医療計画や医療機関での直接金融手段としての株式会社化のあり方など、積極的かつ具体的な提言を示され、多くの参加者の賛同を得ていた。

また、会場からは当大学が東京都民銀行やリーマン・ブラザーズ証券等と設立した（株）医療福祉経営審査機構が行った病院格付けの第一号病院である赤穂中央病院の古城理事長が発言をされ、民間医療機関が健全な経営を継続していくために、資金調達の重要性和格付けの意義について語られた。

第三回を迎えた医療経営セミナーは、多くの医療関係者の注目を集めており、当大学の医療分野における重要性が増してきていることを物語っている。

（国際医療福祉総合研究所 阿曾沼元博）

初山泰弘前大学院長が パリンピックオーダーを受賞

初山泰弘前大学院長が、国際パリンピック委員会（IPC）会長より、パリンピックオーダーを授与されたことを祝う祝賀会が、IPC副会長、フェスピック連盟副会長を招き、二月二十八日、東京の日本海運倶楽部で行われた。

このパリンピックオーダーは、パリンピック活動に多大な功績のあった者に贈られるが、初山前大学院長は、永年のIPC東アジア代表執行委員としての功績およびアジア地域の障害者スポーツの振興発展に貢献されたことが高く評価された。初山前大学院長は、祝賀会の礼状の中で、

「顧みますと、私は一九七三年国際ストーク・マンデビル競技大会に参加する機会を得ました。それ以後、前半はチーム医師として、一九九一年からは国際パリンピック委員会の執行委員（東アジア代表）として約三十年間、国際障害者スポーツ発展の流れの中で歩んでまいりました。（中略）

私の手帳によりますと、アーネム（オランダ）、バルセロナ、リリハンメル、アトランタ、長野、シドニー、ソートレークなどと、二〇数カ国四〇以上の都市を訪れ、その都度、貴重な体験を積み、得がたい経験を得ることができました。

このたび、パリンピック賞をいただきましたことは、私にとっても光栄であるとともに、わが国の国際障害者スポーツ界への貢献も評価されたものと大変うれしく思っております。（抜粋）と、その喜びを述べている。

平成十六年度一般入試前期試験行われる

2/2・3・5

平成十六年度の一般入試前期試験が以下の日程で行われた。本年度、新たに大阪に地方試験会場が設置されたことにより、A日程は大田原、仙台、東京、熱海、大阪の五会場での実施、B日程は昨年度同様、大田原、東京、名古屋、福岡の四会場での実施となった。

出願者数を見ると昨年度より一〇九名減の二、八九一名にとどまったものの、出願期間がこれと重なる大学入試センター試験利用入試の出願者数は一二六名増加しており、一般入試前期試験、センター試験利用入試の合計は、若干ではあるが昨年よりも志願者増となっている。

年々急速に減少し続けている十八歳人口の動きからいえば、本学が前年同様の受験者数を確保したことはまずまずの健闘であるといえよう。これは、これまでさまざまな形で学生募集活動に携わってこられた教職員各位、また、学内外で本学を支援してくださった多くの関係者の皆様方の努力の結果である。

受験生に選ばれる魅力ある大学を目指し、今後とも本学は、大学全体としてさらなる努力を続けていかななくてはならない。

(入試センター 小峰辰也)



(写真提供：医療福祉チャンネル774)

試験区分	学 部	試験日	試験地
一般入試【前期】	A 日程	保健学部 2月2日(月)	本学・仙台 東京・熱海・大阪
		医療福祉学部 2月3日(火)	
	B 日程	保健学部 2月5日(木)	本学・東京 名古屋・福岡

2/18

ニッセイ同和損害保険株代表取締役岡崎会長と奨学生の懇親会を開催



岡崎会長（前列中央）を囲んで

二月十八日、本学レストラン「メイフェア」において、ニッセイ同和損害保険株式会社代表取締役岡崎真雄会長をお招きし、谷学長始め各学科長と、ニッセイ同和奨学生一九名が参加し、懇親会が催された。

今年で六年目になるこの奨学金制度は、同社の創立百年記念事業として、保健・医療・福祉の有為な専門職の育成を目指す本学の趣旨に賛同して設立されたもので、毎年成績優秀者の中から選ばれ、現在二五名が奨学金の支給を受けている。

谷学長の歓迎の挨拶に続き、岡崎会長から、大学で十分な知識を蓄えていただき、医療人として社会に出たときには、温かい気持ちで人に接する心を忘れないで社会に貢献していただきたい、とお言葉をいただいた。

岡崎会長との懇親会は、毎年この時期に開催されているが、今年五月に東京の同社

で行われた認証式に出席した新奨学生七名以外は、年に一度の懇親会であることから、それぞれに緊張感があり、会話も滞りがちであったが、会が進むにつれ和やかな雰囲気となり、熱心に学生の話に聞き入っている岡崎会長の姿が印象的であった。

各奨学生からは、学校生活や私生活の近況について報告があったほか、今年卒業する四年生八名からは、奨学金支給に対する感謝の気持ちと、「趣旨に反しないよう保険・医療・福祉の現場で社会貢献すること」で恩返ししたい、とお礼の言葉が述べられ、会を終了した。

(学生課)

2/18・19

修士学位論文発表会

●東京キャンパス

毎年開催されている修士課程にとつての最後の発表会が本年度も開催された。この発表会には、修士論文を審査することを目的とした発表会であり、この発表と論文要旨をもつて、最終的な判断が下される。私田中は東京キャンパスで発表を聞いたので、東京での様子を報告する。

今回の発表者は全部で八八名、A、B二つの教室を使って、二月十八日と十九日の二日にわたって行われた。十八日はA教室二三名、B教室二名、十九日はA教室二二名、B教室二二名の発表が行われた。各学生はそれぞれ努力をして発表まで漕ぎつけた様子はうかがえたが、発表のテクニックや時間の使い方などについては差を感じた。東京では学生を含め参加者は必ずしも

見・聞・録 第四回

大学院教授・国際部部長
長谷川 豊

「産婆さん」はNO？

発展途上国では、妊産婦死亡率が非常に高いが、その理由の一つは、産科医や助産師が極めて少なく、これらの専門職による分娩介助率が大変低いことである(例：ネパールでは二二%弱)。一方、多くの途上国では、「伝統的産婆」(Traditional Birth Attendant = TBA)といわれる人たちが相当数のお産を扱っており(ネパールでは約三三%)、残り(ネパールでは六四%)のお産は、家族、親族、近所の人、自分自身等、全くの素人による。

前号でも触れた、一九七八年の「プライマリヘルスケア国際会議」の報告書で、WHOとUNICEFは、「途上国においては、TBAを教育して活用することが検討に値する」と述べた。従って、ネパールでも、政府やNGOがTBAに対する研修を実施してきた。ところが、私の指導下でネパールの高妊産婦死亡率を研究している本学大学院生が、「WHOの専門家グループが、最近の報告書で、TBAに分娩介助させないよう、勧告した」と言ってきた。「すわ、WHOの方針転換か？」と早合点するところであるが、WHOのこの種の専門家グループの報告書の表紙には、「この報告書は、国際専門家グループの集約された見解を掲載したものであって、WHOの決定ないし確定政策を必ずしも示すものではない」というDISCLAIMER(責任拒否宣言)が常に記載されている。

一方、「プライマリヘルスケア国際会議」の報告書にはこのようなDISCLAIMERはなく、参加国が承認した「WHOおよびUNICEFの方針」であるので、「専門家グループ報告書」の「勧告」によって、即、覆されるものではない、ということである。ネパールのような国で、お産が全て産科医や助産師によって行われる時代は、残念ながら、百年河清を俟つて来ない、という状況である。

ところで、わが国でも、「産婆さん」に対して国による免許制度(現在の「助産師制度」の始まり)が導入されたのは、一八九九(明治三二)年、ほんの一〇五年前である。

注：ネパールのデータは、大学院修士課程卒業、石井牧子氏から提供を受けた。



研修に参加してきたネパールの「伝統的産婆さん」たち
(写真提供：大学院修士課程卒業石井牧子氏)

多くなく、一〇名以下の場合もあった。もっとも、教室により、また時間により少しずつ様子は変わっていた。また、東京よりも大田原の方が多くいようであった。難しい点もあるが、教員、学生共に参加者の増えるような方策を考える必要もある。

(大学院・福祉援助工学分野 田中繁)

●大田原キャンパス

大田原校での進行は比較的円滑に行われた。発表の中には福岡校で口演、大田原校で画面操作という内容のものもあったが、その連携もスムーズであった。各発表者も論文審査以降の限られた期間ながら、いろいろと苦労し、工夫をこらし、効果的なプレゼンテーションを心掛けた努力がうかがえた。セッション内の構成は必ずしも同一分野のみではなかったが、異分野、しかも他のキャンパスからの質問や発言もあり、活発な発表会の体をなしていた。一部の時間帯では会場の聴者は教員だけとなり、発表者の同級生や友人の姿が見られない状況もあった。勤務の関係であるうが。残念なことである。次回からは先輩、後輩の皆さんの積極的参加をお願いしたい。総体的にすばらしいプレゼンテーションが展開されたものと思う。(理学療法学科 大久保真人)

2/25

大学院全体会議開催

二月二十五日(水)、平成十五年度第二回大学院研究科全体会議が開催された。この会議は、大学院教育に関わる先生方が日頃



東京サテライトキャンパスで行われた教員懇親会

感じている諸問題についての意見交換の場であり、改善方法の提案、検討の場でもある。また、今回の会議にて、修士課程、博士課程の修了判定を行った。

今回は初めて東京サテライトキャンパスを主会場とし、大田原本校、福岡サテライト、柳川サテライトを結んだ遠隔会議形式で行った。全会場で五一名の先生方に出席をいただき、開原大学院長の議事進行のもと、活発な議論が交わされ、全ての議案が承認された。また、本学としては初めてとなる、博士課程の修了判定も滞りなく行われた。

研究科会議の後、主会場である東京サテライトキャンパスにおいては、教員懇親会が開催された。平成十六年度よりこ着任いただく四名の先生方と非常勤の先生方にも参加していただき、有意義な情報交換・懇親のひとときとなった。

大学院は新年度より、修士課程に臨床試験研究分野、リハビリテーション学分野が、博士課程に福祉援助工学分野、医療経営管理分野、医療福祉分野が開設される予定であり、授業数・学生数の増加が予想されている。ますます発展・充実していく大学院の円滑な運営に、今後ともご協力をお願いしたい。(教育企画本部 大澤倫子)

国際医療福祉病院

周産期センター

産婦人科部長 山田哲夫

平成十五年十一月、当院に周産期センターの設置が認可されました。その内訳はNICU（新生児集中治療病床）九床、OICU（母体胎児集中治療管理病床）六床の計一五床であります。栃木県には自治医科大学と獨協医科大学に総合周産期母子医療センター（三次医療施設）があり、栃木県の周産期医療の向上に大きく貢献しています。

しかし両施設が県南に集中していることと、近年両施設が本来二次施設が受け持つべき二〇〇g以上の入院児が八〇％を超えるという極めて異常な状況にあります。その意味からも、この度県北の国際医療福祉病院に周産期センターが設置されたことは栃木県の周産期医療の更なる発展に寄与することができると確信しています。

当院の産婦人科は平成十四年四月に開設され、わずか二年弱の歴史ではありますが、分娩数は激増しております。

当院の周産期センター（NICU、OICU）は総合周産期母子医療センターの施設基準を満たしておりますが、当面は自治・獨協両施設との協調という点からも一丁二・五次施設を目指して参ります。今後とも皆様のご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。



産婦人科病棟



NICU

小児慢性疾患リハビリ病棟

小児科部長 桃谷孝之

慢性疾患をお持ちのお子さまの専用病棟として、平成十五年十一月にオープンいたしました。

小児専属スタッフにより運営され、小児

国際医療福祉大学クリニック

平成十四年度学生健康管理白書

院長 谷 禮夫

国際医療福祉大学クリニックは国際医療福祉大学健康管理センターを兼ねており、学生・教職員の健康維持のため、定期健康診断を実施する一方、日常の疾患に対するプライマリケアを行っております。平成十四年度は当大学の関連病院である国際医療福祉病院が拡大新装オープンし、診療科もドクターも増え、当クリニックのバックアップとしてその存在が非常に心強く感じられました。

平成十四年度の学生の健康管理概要を報告致します。定期健康診断の対象となった学生の総数は三二八名で、受診率九五・〇％と比較的良好でした。身体計測について、体格を表す国際的な指標であるBMI（体重をメートル単位の身長の一乗で割った数値）を算出し、日本人の基準（二五以上を肥満、一八・五以下をヤセと判定）でみると、二五以上は、一年生男子八％・女子七％、二年生男子一三％・女子六％、三年生男子一七％・女子五％、四年生男子一六％・女子六％でした。すなわち肥満は男子の方が多く、学年が上がるにつれて多くなっていました。飽食・欧米型食事・運動不足により、わが国でも肥満が増加し、種々の生活習慣病の予備軍として警告がなされています。事実、血圧の値とBMIとの相関が男子女子ともにみられ、肥満度の高い学生ほど高血圧を呈していました。総コレステロール値とBMIとの相関も同じ

くみられました。また肝機能検査のGPTの値（脂肪肝において高値を示すことが知られている）が正常値より高値を示した者は男女ともに肥満群において高率にみられました。以上の結果から生活習慣の指導の必要性が感じられました。

一方、一八・五以下は、一年生男子八％・女子一％、二年生男子四％・女子二％、三年生男子七％・女子一三％、四年生男子七％・女子一三％で、学年差はないが女子の方が多く、若い女性のヤセ願望を反映しているものと思われます。その他の検査（尿検査、血液検査、胸部X線検査、心電図、聴力検査）で異常がみられた学生には、学生課を通して通知、クリニックで再検査し、治療または経過観察を行う一方、必要に応じて国際医療福祉病院の先生に診療依頼を致しました。

平成十四年度一年間の学生のクリニック外来利用状況は、延べ人数で医科が四、四〇五名、歯科が二八九〇名、計七、二九五名でした。内科では夏季は感染性の急性胃腸炎、冬季は感冒が目立ちました。不摂生や学業・対人関係のストレスから来る胃腸障害もかなりみられました。整形外科では、自転車・バイク・自動車で通学している学生の交通外傷、クラブ活動によるスポーツ外傷が主なもので、運動やクラブ活動における十分な注意が望まれます。平成十四年度までは学生相談室と連携してクリニックにも常勤の精神科医がおりましたが、親元を離れての初めての独り暮らしという生活環境の大きな変化もあって、学生にとって必要な診療科と思われます。プライバシー保護には特に配慮致しました。歯科で最も多かったのは、う歯の処置でした。

山王メディカルプラザ

女性腫瘍内分泌センター

センター長 清水敬生

新規開設の経緯と科の紹介

女性腫瘍内分泌センターは、国際医療福祉大学、山王病院、山王メディカルプラザのスタッフの一年以上に及ぶ御尽力、および高木理事長のあたにかい御支援を得て、二〇〇三年十一月に開設された。

当センター四名の医師の前任地である大塚の癌研病院は二〇〇五年有明への移転に伴い、東京都との契約上、総合病院に変わることになっている。これを機に私たちは十五年以上に及ぶ癌研での臨床経験を生かし、青山の地でより質の高い癌（および周辺疾患）の診療を提供することを決意して、山王メディカルプラザに赴任した。

「女性腫瘍内分泌センター」という科の由来は以下の如くである。

診療の大きな柱である、

一 婦人科癌の診療

二 前癌状態の管理と癌予防

が専門という意味で「腫瘍センター」とした。当初は「婦人科癌センター」あるいは「Women's cancer center」等が候補であった。しかしながら、科の名称に「癌」という文字を入れないようにとの理事長の優しい心遣いに配慮し「腫瘍センター」とした。また、片瀬功芳医師は癌治療に加え、更年期障害や骨粗鬆症の診療にも造詣が深い。清水かほり医師は内分泌に精通している。さらに、子宮内膜症は卵巣癌の前癌状態とも考えられ、当科の重要な標的疾患である

リハビリブレイルームなどを完備しております。特に神経・発達障害の精密検査や治療、気管支喘息の呼吸器リハビリに力を入れています。一般病棟とは別になっておりますので、静かな環境でゆったりと治療が受けられます。当院の小児神経専門医による指導のもと、小児科医、看護師、理学療法士が担当いたします。

今後なす療育園などの国際医療福祉大学の関連施設と協力して、さらに拡充を図っていきたく存じます。



小児リハ病棟

神経難病センター

神経内科部長 加藤宏之

国際医療福祉病院では、神経難病センター（二四床）を稼動しており、神経内科が担当しています。当センターは、一般病棟では満たし得ない、神経難病専用の特殊の診療機能を有する病床から成り立っております。

神経難病とは、筋萎縮性側索硬化症、脊

髄小脳変性症、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症などの難治性神経疾患の総称です。これらの疾患は、原因不明で、症状が進行性で、患者は肢体の不自由を余儀なくされ、常にケアとサポートを必要とします。

当センターは、

神経内科医による専門的医療の提供
入院・在宅における医療環境の整備
医療面・生活面でのきめ細やかな支援
必要時の入院病床の確保
を設立の目的としています。

神経難病医療は、医師や看護師ばかりでなく、リハビリテーションやMSW、さらに、福祉、行政まで含めた幅広い支援を必要とします。当院は栃木県難病医療連絡協議会（いわゆる神経難病ネットワーク）の協力病院の一つに指定されており、栃木県北における神経難病医療の中心的存在を目指しています。



神経難病センター

こと、および子宮体癌はホルモン異常が原因の一つであること等から「内分泌学」は私たちの診療の重要な部分でもある。これらの理由から「内分泌」という文字を科名に加えることとした。また「婦人科」というより「女性科」の方が、womenの訳として忠実である。このような背景を元に「女性腫瘍内分泌センター」という科名を考案し、理事長に了承された。

診療の柱は、

一 婦人科の癌（主として子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、および腹膜癌）の診断と治療

二 前癌状態の管理、および癌の予防

三 内分泌疾患（筋腫、子宮内膜症、骨粗鬆症、卵巣機能障害）の診療

等である。治療上の哲学は、早期癌（〇期）では臓器、機能を温存し、進行期（Ⅰ期）や再発癌であっても治療を目標とすることである。その際に、患者様のQOL（Quality of life）が損なわれないことを条件とする。病気に罹患する前の健康な状態で、通常の生活が楽しめるこそ治療と考えている。

女性センターの特徴としては、

一 病理標本をメンバー全員が自身で鏡検し、病理医と議論可能な診断能力を有すること

二 縮小手術および拡大手術を安全にできること

三 抗癌化学療法を、臓器、組織別に個別化し、副作用を軽減し、より効果的な方法で実施できること
等である。

（次号へ続く）

SKY PerfecTV!

医療福祉チャンネル774NEWS

Health & Welfare 774

～ご自宅のテレビで医療、福祉、健康、介護の情報番組、資格受験講座がいつでも見られる！～

今すぐ始めましょう!

医療福祉チャンネル774の

「ケアマネジャー受験講座2004」と「介護福祉士受験講座2005」は、5月本編開講!
繰り返し視聴で、今年は資格取得!

■「ケアマネジャー受験講座2004」

この問題を解くには**これだけの知識**が必要。**過去3カ年の全180問**を網羅。実際の試験と同様、分野別に**過去問題に沿って重要項目を分類**。国際医療福祉大学の講師陣を中心に、各分野の専門家が詳しく解説。講師執筆によるテキスト『**必携 ケアマネジャー試験対策2004**』に沿って進められる講義で、効率的に、確実な実力が、**短期間で身につきます**。

放送回	内容
介護支援分野	
1回	介護問題と介護保険制度
2回	介護保険制度の概要
3回	要介護認定・要支援認定
4回	介護支援サービスと介護サービス
5回	介護支援サービスと介護支援専門員
6回	居宅介護支援の目的と内容
保健医療サービス分野	
7回	高齢者保健医療の概要
8回	介護とリハビリテーション
9回	在宅医療と終末期の介護
10回	訪問看護・居宅療養管理指導・短期入所療養介護
11回	リハビリテーション
12回	介護保険施設
福祉サービス分野	
13回	訪問・通所によるサービス
14回	施設でのサービス
15回	福祉用具と住宅改修/介護保険施設
16回	高齢者福祉の基礎および関連知識
過去問題編	
17回	介護支援分野 - 1
18回	介護支援分野 - 2
19回	介護支援分野 - 3
20回	保健医療サービス分野 - 1
21回	保健医療サービス分野 - 2
22回	保健医療サービス分野 - 3
23回	福祉サービス分野 - 1
24回	福祉サービス分野 - 2

●使用テキスト
『必携 ケアマネジャー試験対策2004』



発行(株)医療福祉総合研究所
定価: 4,500円(税込・送料サービス)
テキストのみでもご利用いただけます。

■「介護福祉士受験講座2005」

全科目、**厳選された重要過去問題**を交えて詳しく解説。講義は国際医療福祉大学の講師陣が担当。講師執筆の**番組完全準拠**のサブノートに沿って進められる講義で、最短時間で、合格への道が開けます。**実技編**は「イメージトレーニング」と「模範実技」で分かりやすく講義。

放送回	内容
本編	
1回	社会福祉概論
2回	老人福祉論
3回	障害者福祉論
4回	リハビリテーション論
5回	社会福祉援助技術
6回	レクリエーション活動援助法
7回	老人・障害者の心理(老人の心理)
8回	老人・障害者の心理(障害者の心理)
9回	家政学概論 (家庭生活)
10回	家政学概論 (栄養と調理)
11回	家政学概論 (被服生活)
12回	家政学概論 (住生活)
13回	医学一般
14回	医学一般
15回	精神保健
16回	介護概論
17回	介護技術
18回	介護技術 (老人の介護)
19回	形態別介護技術 (障害者の介護)
20回	第16回試験問題編
21回	第16回試験問題編
22回	第16回試験問題編
実技編	
1～6回	介護要素と過去全問題の解説

●番組準拠サブノート
『介護福祉士受験講座2005サブノート』



発行(株)医療福祉総合研究所
定価: 4,500円(税込・送料サービス)

●医療福祉チャンネルを見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。

ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!

○視聴料・・・月額2,100円(税込)/法人契約: 5,250円(税込)

(このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円(税込・初回のみ)・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円(税込)がかかります。)

○IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問合せ下さい。

●テキストのお申し込み・視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774(お客さま係) Eメール info@iryoutukushi.com ホームページ www.iryoutukushi.com

IUHW 短信

IUHW Note

●国際医療福祉大学では、毎年恒例となった地域の方々を対象とする「イブニングタイム公開講座」を以下の通り開講します。

○テーマ: 「高齢者の健康増進—運動の重要性—」

○期日: 5月18日～7月13日の毎週火曜日、午後6時30分～午後7時30分(5/25は都合により開催しません)

○会場: 国際医療福祉大学、大講義室(F101)

○受講料: 全8回3,000円(事前登録) 1回500円

○どなたでも聴講できます。奮ってご参加ください。

・第1回<5月18日(火)>「健康と運動 元気で歩こう」: 丸山仁司(国際医療福祉大学保健学部理学療法学科教授・理学療法学科長)

全8回(詳細は次号、55号で紹介致します。)

問合せ・申込み先: 国際医療福祉大学事務局総務課 ☎0287-24-3000

表紙・特集写真: 加藤文哉
デザイン: アイ・デフト

発行: 国際医療福祉大学
編集部
【東京】
〒107-0062
東京都港区南青山一丁目一
アミティ乃木坂三階
電話 〇三五四一六〇九八
【大田区】
〒324-8501
栃木県大田区北金丸六〇〇一
国際医療福祉大学内
電話 〇二八七二四三〇〇〇

